

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

労働時間ばかりが注目される風潮下で…

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【労働時間短縮に動き出したビジネス環境】

今、“労働時間”が各方面で問題になっています。しかも、大手運送業や大型小売店等では、従業員の労働時間短縮のために、受注調整や開店時間の短縮化を図る動きさえあります。

そうした“動き”は、当面は“対岸の出来事”ではあっても、従業員の“意識変化”を通じて、自社にも及びかねない問題だとする経営者の皆様も、かなり増えて来ていると言われます。

【労働の“時間”ばかりが問題になるのは…】

しかし、その一方で“労働時間”ばかりが問題になるのはおかしいという指摘も少ないとは言えません。労働には“時間”ばかりではなく、“質”の問題があるからです。

【同時間の労働でも“質”には大差がある】

たとえば、同じように8時間働く場合でも、貢献的に働く人とそうでない人の中には、雲泥の差が出るでしょう。ビジネスに貢献しないのに、時間当たりだけで“労働の価値”が測られるのは、少なくとも“経営マインド”には、好ましい状況だとは映らないはずなのです。

【公には考えにくいから…】

しかし、ビジネスへの貢献という“労働の質”のテーマは、公的機関やマスコミが“取り扱う”のに適した問題ではないかも知れません。

“質”の基準は、会社の事情によって異なる上に、まさに“貢献”そのものへの評価は、経営陣によって違うのが普通で、なかなか“一般化”ができないからです。

【労働の質は経営者特有のテーマ】

そうだとすれば、“労働の質”は、経営者の皆様自身が考えなければ、誰も考えてはくれないテーマだと言えそうです。そのため、傍観は得策ではないかも知れないのです。

ただ、では“どう考える”べきなのでしょう。あるいは“どう考え得る”のでしょうか。

【マネジメント・レポートを差上げます！】

そこで、“労働の質”のテーマに正面から挑んだ、ある経営者の方の体験を、マネジメント・レポートとしてご用意することに致しました。

有料定期購読者の方には、そのレポートをお渡しいたしますので、ご一報ください。



今、様々な企業で“労働時間”が問題になっています。それは、未払い残業代問題という姿で現れたり、仕事量の削減のための受注抑制という形で出て来たりしているのです。

しかし“時間”という“量”的視点と同様、労働によって、どのような“成果”を出すべきかという“質”の問題も重要なはずで、労働の“質”が低ければ、それはそのまま“事業成果の低下”につながるからです。

では“労働の質”とは、いったい“どのような”ものなのでしょうか。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>